

## 令和元年度 第1回 住田町総合計画推進委員会

日時 令和元年 10月 18日（金） 19:00～21:07

会場 役場町民ホール

出席 全員出席

内容 進行：企画財政課 横澤課長

1. 開会 進行が開会

2. あいさつ 横澤副町長

おぼんでございます。副町長の横澤でございます。本日皆様におかれましては、住田町総合計画推進委員会委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。また、ご多忙の中第1回目の委員会のご出席いただきありがとうございます。本来であれば町長の神田が皆さまの前であいさつ申し上げるところでございますが所要により今日は出席しかねましたので私より一言ごあいさつを申し上げます。

本町では平成27年度に町の人口ビジョン・総合戦略・総合計画を策定いたしました。人口増加と所得向上を着実に進めるために今まで各種の施策を進めてきたところでございます。結果としては残念ながら人口減少のスピードが早いかなと。ただ、所得は上昇傾向にあったのですが、またこれも横ばいという状況になっております。

また、住田町の人口構成としては15歳から64歳までの女性の割合が県下で下位にあること、人口増加に影響を及ぼす女性や子供を増やす施策が展開することが必要であることが明確になっているところであります。人口構成からみて住田町の一番弱いところが明確になってきたと思っております。また、一つの特徴としては本町の人口構成の中で、外国人の比率が県内でトップでございます。これも施策の中で考えていかなければならない一つの要素だと思っておりますし、また、次期総合計画の策定にあたっては、女性、子供に選ばれる町でないと、15歳から64歳までの女性の割合が低いということは本当に町にとって弱いところでありますので、その辺を厚くこれから施策を展開していかなければならないものと思っております。女性に選ばれる町、子供が住みやすいまちを目指しながら施策を推進していくところでございます。

今日、今までの委員会とちょっと様子が違うなと思ったのが、女性が多いということと、それから男性も私より本当にぐっと若い人がいて、今後これから委員会を展開していく中で、皆さんの多様な意見が出てくるのを期待しているところでございますし、その意見をこれからの施策の展開に盛り込みたいと思っております。

先ほどから言っていますが、女性が住みやすいまち、子供が住みやすい町じゃないと人口はとても保っていきませんので、選ばれる町になりたいと思っておりますので、皆さんご意見をよろしくお願ひしたいと思っております。

また、本委員会は本日から来年2月までの3回の委員会の開催を予定しております。

厳しいスケジュールの中ではございますが、忌憚のないご意見、多様なご意見をお願いしたいと思います。また、計画が実行につながるようにご協力を、また、お願いいたします。最後になりますが、首都大学東京の大杉覚先生には現計画の策定からご指導ご助言をいただいております。今回の推進委員についても大変お忙しい中お引き受けいただき感謝を申し上げます。引き続きよろしくをお願いいたします。甚だ楚辞ではありますが、私からのあいさつといたします。これからもよろしくをお願いいたします。

### 3. 委嘱状交付 大杉覚委員への代表交付

### 4. 自己紹介 全委員から自己紹介

### 5. 委員長互選、副委員長指名

- ・事務局から委員長の選任方法について意見を求めたところ、事務局一任の声があり、事務局案として大杉覚氏を委員長として提案したところ異議なく選任

#### ※委員長あいさつ 大杉委員長

住田町総合計画推進委員会の委員長という大役を仰せつかりまして、大変、身の引き締まる思いですけれども、前身の委員会に引き続きまして、この住田町のこれからのあり方を皆さんと共に考え、皆様からご指導をいただきながらこの委員会を運営していきたいと思っています。先ほどの副町長のごあいさつの中にも少しございましたけれども、この総合計画、住田町にあってはですね、まち・ひと・しごと創生法、よく地方創生と言いますけれども、そのもとになっている法律、まちひとしごと創生法に基づく総合戦略を兼ねる形にもなっています。この町の将来のあり方を決める、非常に重要な計画ということで、これは行政だけで決めるものではない、当然ながら町の人たちが決めていかなければならないということがあります。今回特に、委員会では大幅にメンバーが変わったかなと思います。大きな特徴としては、先ほどもお話がありましたけれども、ほぼ、男女比が半々になり、年齢的にも若い方々が、将来のことを考えていくということから、もちろん、それは若い人たちのことだけを考えればいいということではなく、今現にいる高齢の方々も住みよい町でなければこれから安心して我々が過ごしていけないということはあるんですけれども、やはり将来ある、若い人たち、さらには子供のことをきちっと考えていくということが非常に重要になってこようかと思えます。

ぜひ皆様のご指導を受けながら、この会の運営を図っていきたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

- ・引き続き、大杉委員長が、副委員長に金野千津委員を指名。

※副委員長あいさつ 金野副委員長

皆さんと同じ席に座って、副委員長という役だけを引き受けると思っていたのですが、来て早々にここに副委員長席があつて、ちょっとびっくりしております。どうぞよろしくをお願いします。

7. 協議 議長：大杉委員長

(1) 住田町総合計画について

①計画の基本事項～人口ビジョン（計画書 p1～13）

- ・事務局が配布資料を確認し、資料2、資料3に基づき説明

大杉委員長 住田町総合計画(1)①の計画基本事項、人口ビジョンの部分について、まずご説明をいただいて皆様からご意見をいただきたいと思うのですが、ちょっと補足しますと、先ほど申しあげたとおり、これは総合計画として策定するんですが、その一方で、まち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略という言い方をしております、各自自治体の総合戦略を作ることになっております。

その総合戦略をどうやって作るのかというと、将来を見据えて、直近5年間でどういうことを行うのかというのが総合戦略ですが、その将来を見据えてという部分がですね、特に何を中心に見据えるのかというと、人口なんですね。そこで、人口ビジョンというものを作るということになっています。その人口ビジョンでは、このままいくと住田町は、各年齢がこうなっていくとか、社会増減がこう変化するというのを推計したうえで、やっぱり住田町は今後ですね、町としてきちんとした形で住み続けられる町にするにはこれぐらいの人口が必要なんですよということ定めたのが前の計画で4,000人ということになります。実際に現状のままいくともっと少ない人口になるんですが、4,000人で何とか歯止めをかけましょうというのがこの計画なんですね。

前の段階で根拠にしていた国勢調査から新しい国勢調査の結果が出てきて、よりちょっと厳しい結果だったということで推計し直してみると、4,000人を達成するのに183人ほど足りない厳しい状況だけれども、役場の方では計画を作るにあたっては4,000人という人口目標、これは、引き続き次の5年間掲げたいというのが趣旨ということになります。

この点につきまして、今日、初めてご参加の方々も多いと思いますが、基本的なことから構いませんので、質問それから疑問、ご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

奈良委員 資料3の12ページの社会増減ところなんですけど、前回もここを解明できたら面白いのになと思ってご意見させていただいたのですが、転入が100人を超えているというのは、人口5000人の町で100人ぐらいの人が毎年入ってきているという結果になっているのですが、この人達がお嫁さんに来たのか、就職しに来たのかというのはあるのかも

しませんが、震災後だと例えば復興事業に来た人たちで、事業が終わったから平成 30 年ぐらいにたくさん 130 人、140 人ぐらいの人が帰っていったとか、その辺の分析って難しいのかもしれないけど何となくどんな感じなのかなというのがわかれば、対策のしようもあるのではないかなと思っていまして、感覚としてこうなんじゃないかというのがわかれば教えていただければ。

**高萩係長** 平成 28 年に社会増減が 9 人プラスになっているんですけども、これは岩手県内でも矢巾町以外では住田町だけがプラスだったということで、この時に転入転出を分析をいたしました。ただ、分析するといっても、住民基本台帳上でしか、分析ができないので、どういった世帯、世帯構成ですとかどういう住宅に入っているとかといったところを分析したものになります。

用いている転入の数が資料のものとは違う期間のものを用いているので数としては合わないのですが、まず、子どものいる世帯については、年間大体 20 世帯前後ぐらいが転入してきていますが、逆に転出のほうが 30 件前後ぐらい転出をしているというのが最近の状況としてあります。

それから、転入してくる方がどういった住宅に入ってきているかというところですが、町営住宅に入る方が最も多くて多いときで 40 世帯ほど、少ないときでも 10 世帯ほどになるんですが、それ以外の仮設住宅、アパート、公社などを除いたその他というのが持ち家になると思うんですが、そちらの方が年間大体 100 世帯前後入ってきているんですけども、その方がどういった要因で、単なる転勤できている方なのかここに永住しようとしてきている方なのかまでの分析できていない状況です。

**佐々木委員** 確認なんですけれども、2040 年に 4,000 人という目標については、スローガンということで資料 3 に書かれておりますけれども、実際その 4,000 人を下回った場合ですね、町の生活基盤は税収面とかいろいろあるかと思うんですけれども、苦しくなってくるのかなとか、なんで 4,000 人にしたのかという基本的なところもう一度教えていただきたいなと思います。

実際その 4,000 人じゃなくてもいいのかなとも思ったのですが、ただ、スローガンとして掲げている以上、後でいろいろ突っ込まれたりすることもあるんじゃないかなと思ひまして。ちょっと簡単なんですけれども教えていただければと思います。

**高萩係長** 資料 3 の 19 ページに必要な条件として出生率の上昇、社会増減 0 と書いておりますが、以前からこの町の課題として子供の生まれる数が減っているということと、転出、社会減がなかなか止まらないといったところが課題としてございましたので、その一番の課題である出生率の上昇と社会増減 0 というところをまずは取り組む目標として掲げた結果、シミュレーションしたところ、2040 年に 4,000 人だったということで、4000 人を目標人口として掲げたところです。

**佐々木委員** 4,000 人ということで掲げたのであればそれでいいのではないのかなというふうにとらえました。

引き続き質問なんですけれども、24 ページに、高卒者、大卒者の就職先を作る、そして、女性に選ばれる町づくりと先ほど副町長からのごあいさつでもあったとおりの内容の部分もあるのかなと思いますけれども、結局学業か何かでいったん外に出て、戻ってこない若者たちが多いのかなというのが、結構昔から言われていることなのかなと思います。そうなった場合に、やはり仕事で一番の魅力は収入の部分が高くなければなかなか戻ってこないのかなという部分と、女性の皆さんに選ばれる仕事とすれば子育てに理解のある仕事づくりなのかなと思われまます。

そういったものを一度地元の若者や女性の皆さんにターゲットを絞りながら情報発信をしていくことが重要なのかなと思いましたので、よろしくお願いします。

**大杉委員長** この目標をどうするのかというところ、非常に難しいところではあるんですけども、目標人口、資料3の24ページにもありますけれども、目標人口を達成するうえで、ここには就職先だとか、女性に選ばれる町づくりということを掲げていますが、施策面でどういうふうに対応していくのかという具体策とも関係してくることになりますし、今日の段階では、そこまで踏み込めませんが、皆さんの方でどうイメージしていったらいいのか、この4,000人っていう目標自体が、かなり高い目標でもある。そのことも含めてぜひ考えて頂きたいと思います。先ほどもあったようにそもそものシミュレーションの前提として、出生率上昇と社会減0にするということですので、それでも、なかなか届かないところがあるっていうことですから、ただ、数値目標というのにこだわりすぎるといよりはおよそ、そもそも4,000人と掲げたのが、住田町が将来にわたって今と全く同じというわけにはいかないにしても、きちんとした町として暮らしていけるあり方の方がむしろ重要なんですよね。それを実現させていく上でどう考えていくのかということはまた具体策としても考えていかなければならないということになりますので、もし、この4,000人という目標についてご意見ありましたら出していただきたいと思えますし、この先、また出していただくという分でもいいのかと思いますので、次に進めさせていただきたいと思えます。

## ②現状～基本理念（計画書 p14～27）

・事務局が資料2に基づき説明

**大杉委員長** ありがとうございます。ただ今ご説明いただいた、現状から基本理念についてご意見をいただきたいのですが、先ほどと同じようにいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

皆さんの中で、今の説明の前半の、5地区の住民懇談会に出席された方、いらっしゃいましたら、どんな感じだったんでしょう。

**佐藤(浩)委員** 行政の課長級が出ていろいろ話をしました。初めての体験だったような気がします。そういう意味ではすごく、町の状況もわかったのではないかなと。

まして、付せんに書いて出したことがまとめられていると、あの時のことだと改めて感じています。強み、弱み、すべてこれから子育てする人、介護する人にも通じるものがいっぱいあって、すごく大切なことだと思っています。

地区懇談会はすごくよかったんじゃないかなと思っています。具体的にと言われると思い出せないんですけど、担当課が説明をしてくれてその中で意見交換が行われたので、よかったのではないかなと、下有住はよかったのではないかなと。

**金野副委員長** 課長さんがずらっと並んでの長い長い説明。それ自体は勉強になりましたけれども、あの時は、私、付せんに書くときに思ったのは、やっぱり参加者がいつも同じ、偏っているので、できるだけ私の感覚だけじゃなくて、たとえば、若い世代だったらどうだろうとかっていうのを自分の中で想像して書こうと思って、一応書きました。そういうところがあるので、参加者がここに、若い方たちがいるんですけど、2人しかいないということに私も驚いたんですけど、そういう意味では、もう少し若い世代も混じったものであれば、違うものが出たんじゃないかなというのが感想です。

**大杉委員長** ありがとうございます。こういう住民の方に参加していただいてという会は今後まだ予定されているのでしたよね。ですので、また、引き続きご出席いただきたいと思ひますし、ちょっと他の方々にも、ぜひ次の機会にはご参加いただきたいですし、さらに言えば、自分の周りにいる他の方もお誘いあわせの上、特に若い世代の方々に多くご参加いただきたいという思ひますので、事務局の方でもそういう流れになるように努めていただければと思ひますが。ありがとうございます。

**佐藤(浩)委員** 今の件なんですけど、若い世代、うちの息子のお嫁さんを見てても思ひますが、ちょうどその時間すごく忙しいんですね。子育て、本当に忙しくて出ている時間がない。一日だけというんですが、子どもを預けて、なかなか、出ていけない。そういうところも配慮しながらどこの時間帯がいいのかなというのも考えてもらいながらだと、もうちょっと出やすいのかなと。今、言われてみれば、若い世代が出ていない、うちの年代から上の人たちばかりが参加していたので、その辺の時間調整なんかも、日曜日とか子供を連れながら参加できるような、そんなことも考えていただければと思ひます。

**大杉委員長** 貴重なご意見ありがとうございます。私普段は東京の方にいますので、東京の方の自治体ですと、職員の数もそんなに十分ではないにせよ、ある程度いますので、そういう違う時間帯に開いたり、例えば、サラリーマンの人が来やすい時間でやったり、あるいは家庭の主婦層の人たちが来やすい時間帯にしたりとか、例えばの話です。そういうことやってるんですが、なかなかそこまで何回も一つの地区でやるっていうと、職員の方に相当な負担がかかってしまうので難しいですが、例えば前回やった時とは違うやり方をやってみるなり、どういう時間帯が参加しやすいか、女性、子供ということを考えるのであれば、そういう方々のご意見を聞きやすいような時間帯を工夫して、地区によって違う時間帯にしてみるとかですね、そういう工夫も考えていただけたらなと思ひますし、あるいは、お子さん連れてきた場合、例えばこれできるのかどうかわかりませんが、

私の体験では、保育士さんに来てもらって、ちょっと預かってもらえるような形をとったりとかですね、ちょっとした工夫のところまでできる範囲内で考えて頂ければなと思いますのでお願いしたいと思いますが。

それはそれとしてですね、内容面につきましていかがでしょうか。特に26ページ、計画全体の、豊かな緑と水に生まれやすらぎとにぎわいが調和する共生の町住田という考え方の基、中身はこれから詰めていくんですけども、こういう目標の下で、具体策を考えていきたいということなんですけど、この点につきまして特にご意見等いただけますとありがたいんですけど、いかがでしょうか。

**佐々木委員** 14ページにですね、住田町の強み、弱み、理想の町の姿ということで、ワークショップが行われたということなんですけれども、強みや弱みを見るのに、よくSWOT分析というのを、私も仕事柄やらせていただいたりはするんですけども、強み、弱み以外に、機会とか脅威とですね、そういったものをとらえつつ、次、クロスSWOTとかっていう戦略などを生み出していくワークショップなどをやったりするんですけど、こちらでは、強みと弱みと、そして、理想の姿という3点に絞られていまして、最終的には理想の姿というのが、26ページの基本理念に生かされるという流れになっているのかなと捉えているんですけども、ただ、ちょっと正直な感想を申し上げると、機会だったり脅威だったり、現実的な部分が見えないと、ちょっと夢物語になってしまうのではないかなと。あくまでも理念なので、夢で良いのであればその通りではあるんですけど、いろいろ、そういう生活していくなかで、夢の実現に向けて取り組んでいくのであれば、もうちょっと状況をいろいろと分析したものを入れて作っていく必要性があったのかなと思ったんですけども、その辺は踏まえてこういった理念などを出されてきたという感じですかね。

**金野副委員長** たぶん、強みとか弱み、その時の住民懇談会から引き出したものであって、特にワークショップを行って出てきたものではないので、おっしゃるような興味とかそういうところは、これから計画を立てる上では必要になってくるとは思うんですけども、今後の課題なんじゃないでしょうかね。あとは、理想の町の姿というところの、強み、弱みから、たぶん、行政の方が引き出したものだと思うので、これは、ここの委員会の中で十分に協議していった解決策を練っていけばいいのかなとは感じてます。

共生の町というのは重要なキーワードになっているので、これが入っているのは非常によろしいのかなと思うのと、あと、この前のすみた広報ですかね、亡くなった人が多い割には、人口が増えているということが、一時みんな話題になって、何でなのかってことで騒いだんですけど、やっぱり、外国人労働者の方たちが入ってきているってところが大きいのかなっていう意味で、共生っていう部分で、今後、住田町としては、その外国人労働者とどう共生していくかっていうことも考えていく必要があるのかななんてことを考えております。

**高萩係長** SWOT分析でいうところの、機会と脅威については、正直、基本理念を導き出すためには特段分析をしていないと言われても致し方がない部分かなと思いますが、町の

方向性を決めるところでしたので、先ほど、お答えいただいた通り、その理想の姿に向かう時に、何が障害になって何がチャンスとしてあるかというのを分析するときに機会であるとか、興味というものを考慮しながら、さらに、具体的な中身を決めるということがよろしいのではないかなと考えました。

**大杉委員長** SWOT分析の強み、弱みというより、プラス面とマイナス面で分けているので、SWOT分析の脅威とか機会に関してはこの中に混ざっているんですよ。そこら辺をどうきちっと分析するかっていうのは、おっしゃる通りなのと、いきなり理想の姿になっているので、そういうの抜けちゃっているんじゃないのというのはそのとおりなんですけど、総合戦略であり総合計画であることから、将来のあり方を踏まえて現状を考えていくとき、当然、時間の変化の中で、様々な機会にチャンスも出てくればですね、いろいろ対応しておかなければいけないような脅威も出てくると思います。そういった要因をきちんと見極めていくことはやはり重要かと思しますので、個別の施策、事業などにどうかかわってくるのか、っていうことは次回以降お示しいただくことにはなりますが、総合計画の中でどんなような考え方になっていくのか、事務局の方でも整理して頂いてご提示いただければと思います。

金野さんからいただいた共生というキーワードが入っている。これまさに社協ですから、一番関わってくる重要なところかと思えますし、国の計画で、今福祉だけではなくて、いろいろな各省の計画の中で、共生という言葉はキーワードになっています。そういう意味では、この共生という言葉をうまく評価されたという点は非常に重要なことかなとおもいますが、その他でいかがでしょう。

書かれていること自体、だめだとか悪いということはないと思うんですけどね。ただ、どういうふうに捉えていくのか、あるいは、また繰り返しになりますが、女性とか子供といわれて、豊かな緑と水に生まれというところに子供たちを育むという視点が入っているわけではありますが、もちろん、自然だけではないと思いますね。そういう点、どう読み込んでいくのかとかですね、そういった点につきましては、もうちょっと、キャッチフレーズ自体はこれで良いとしましても、もう少し説明の中で、もっといろいろな読み込み方があるんじゃないのかなという気はしているんですけども、例えば、こんなような視点があればいいのではないかなとかですね、お気づきの点があれば一つでも出していただければと思うんですが、いかがでしょうか。

**藤井委員** この、基本的方向で思ったのが、仕事分野。これがだめだというわけではなくて、これはもちろんこの通りなんですけれど、もちろん住田町で、豊かな緑、川など当たり前のことで、これを生かしていこうという基本的理念、基本的方向はこの通りでそうなんだろうなと思うんですが、この町の風土を生かす産業ってなれば、農業、林業で限りがあると思うんですね。企業誘致とかそういった面での取り組みとかっていうのを、文言を入れるのではないですけども、これからの、具体的に議論、協議していく中では出てくると思うんですが、そういったものもありますし、ちょっと話戻っちゃうかもしれないんですけど、

2040年4,000人という目標の、町のスローガン、町民に向けてのメッセージというのも、たぶん、私たちのこの行政とか委員の中ではそれでいいのかもしれませんが、一般町民にとって、20年後4,000人、ピンとこないと思うんですね。なので、20年後4,000人が町民に向けてのメッセージではなくて、共生の町ってある通り、オール住田って書いてますけれども、町民みんながどういうふうやっていくかと、どういうふうに4,000人に向かっていくという目標ではなくて、そのために、町民一人一人がどういう意識を持つのかということだと思うので、それはこれから詳しくやっていくと思うんですけども、ただ、その自然ありき、自然頼りという感じがして、もっとう、いろんな企業が来て、仕事場が増えて、人口が増える、手っ取り早い話かもしれませんが、そういったのも、もっと取り組む事項かなと。できなくて今までこうなってきたのかもしれませんが、そこも結構重要なことかなと感じています。

**大杉委員長** しごと分野について具体的に企業誘致、起業する人たち向けの支援であるとか、そこらへん、次回以降の基本的な方向と次の第4章にかかってくることもかもしれませんが、ちょっとそこら辺でもし事務局の方で補足的な説明とか、事前予告的な説明とかありましたら、ちょっといただければと思います。

**高萩係長** 今いただいたご意見ですと、自然ありき、自然頼みというところは、私もハッとさせられた観点でございましたので、しっかり心に留めておきたいと思いました。

この後の部分でご説明をさせていただこうと思っていたのですが、基本的方向と、政策分野の取り組み方向、アクションプランのところより具体的な話になってまいるわけですけれども、こちらについては今後、皆様と一緒に議論、検討をしてみたいなと思っているところでございます。

今日のような、全体の会議ですと、なかなか発言できないなどあるかと思しますので、設置要綱の方には部会を設けることができるという規定がございますので、各所属の分野に分かれていただいて、ひと分野、まち分野、しごと分野について議論を深めていただく場を設けたいなと考えております。そちらについては、詳しくは後ほどお話をさせていただきたいと思っております。

**大杉委員長** 先ほどの藤井さんのご意見と、基本理念の関係でいうと、安らぎとにぎわいが調和するということで、もう少し、企業誘致や起業など創造的なことの要素が、クリエイティブな面ですかね、そういうようなことがもう少し入ってもいいのかなというのがありますね。基本理念の文言自体を変えるというよりは、説明のところでもそうしたことが読み取れるような記述があってもいいのかなというのが私も感じたところでもあります。他、いかがでしょうか。

**高橋委員** 基本的なことを質問させていただきたいのですが、恐縮ですが教えてください。2045年に高齢化率が56.7%という、14ページに入っていますけれども、私も訪問看護ステーションを運営する中で、危機的な人口減少を感じております。その中で、生産年齢人口が減る中で高齢化率が今後住田町上がっていきます。となると、今、私どものステーシ

ョンを利用されている方々の介護保険、医療保険の負担額を見ると1割負担の方々がほとんどです。で、大変恐縮なんですけど、住田町の平均年収を考えますと、今後施設を住田で運営するとですね、専門家の人件費で食われてしまうというのをシミュレーションしております。

そう考えた場合、先ほど大杉先生 2040年には4,000人というところの4,000人の理由は事業を最低でも運営するうえで必要な人数とおっしゃった気がしたのですが、違いますでしょうか。というのは、何人がターニングポイントの人数となるのか。4,000人の人口で町の事業が運営できるのだろうか、危機を日々感じています。

この4,000人の意味づけ、先ほど、大杉先生がおっしゃったんですけど、もう一度教えていただきたい。そして、本当に最低、この住田町の事業を行う上で、事業というのも様々あると思うんですが、必要な人数を教えていただきたいなと思います。

**大杉委員長** とても重要なポイントかと思います。私が先ほどどういう表現で言ったかあれですけども、町の行政の仕組みとして成立するうえで、例えばそれは財政面であったり、人口規模であったりというのをそこから考えてということでは必ずしもないです。人口ビジョンを作る、総合戦略を作るっていうのは、この行政のあり方というよりは、町の全体の社会の仕組みとしてどう考えていくのかということから考えているんですが、ただし、あくまでも人口規模で、これぐらいであれば現在の状況から、あまり著しく大きく、社会として成り立たせていく上で、この規模であれば、地域の方で受け入れていけるだろうということを想定したのが、当初の目標と考えて頂ければと思います。

果たして4,000人でやっていけるのかどうか、これ行政もそうですし、地域の事業者もそうですけれども、これはまた、少し別の問題になっていくところはあるかと思います。でも、それがあつた程度成り立つということは前提ですけども、今のままで全く同じにやっていけるかはまた別ですので、それはまた考えていかなければいけないところだろうなど。たとえば、行政のあり方でいえば、今の職員の数でやっていけるかということにもなっていきますし、これは、国の方でも自治体の職員の数に関しては、まだ減らせないのかという話があつたり、一方で技術的な進歩ですね、ICTとかAIとか、そういうものを活用してやっていけないのかという議論もありますし、そういうものがあつたからといって本当に減らせるのか、減らしていいのかということも論点としてあろうかと思えます。また、それを踏まえて、地域コミュニティのあり方とか、事業者のあり方というものも考えていかなければいけないので、今と全く同じ状況でもやっていけますと保証する数値でもなんでもありませんよね。そこはやはり、改めて考えていかなければいけないことかと思っています。

ただ、地域として存続可能な形としてやっていく上では、やはり今のままいくうえでは4,000人ぐらいが一つ妥当なのではないかというのがこれまでの判断としてあつたということなので、本当にそれでいいのかどうかっていうのは、今、高橋さんのところは事業者としていろいろ考えていること、これも実は今後いろんな事業者側がどう考えている

かっていうことも、ご意見として出していただいた方が良いのかなって私は思っています。なかなかそういう、一般の事業者や地域の側のデータっていうのは取りにくいから、行政の側で把握しやすい人口であるとか、そういうところだけで推計してきたところがあるんですが、本当は人口4,000とか数は 現実に町村で、もっと人口が少ない数百人とかですね、極端に言えば1,000人、2,000人規模の町村だってあるわけです。でも、この地域の中で今活動している人たちが、例えば2040年までいろんな活動をしていく上で、どれぐらいの規模であれば、なんとかやっていける水準なのかということ、今検討しているということなんです。

あくまでも、現時点での推計ですので、将来、変化が出てくる。先ほど言ったような、興味やチャンスみたいな話も放り込んで考えていかなければならないでしょうから、当然今すべてを予測できるわけではないということになりますので、そこら辺は了解していただかなければならないところかなと思っています。

**高橋委員** 今のお話聞いたら分かったんですけども、ターニングポイントって私5,000人って何かの雑誌で、何とかやっていける人数が5,000人ってありましたので、1,000人も減る中でそういうこと可能なかっていう疑問が個人的にありまして、ターニングポイントが5,000人だと思っていたので、100であれ200人であれ、その町が存続する仕組みというか、人口のあり方があれば可能なんだということがわかりましたので、ありがとうございます。

**大杉委員長** 先ほども申し上げた通り、様々な人口規模の自治体、現にありますし、ターニングポイントという言い方をすれば人口10万台だって厳しいというような言い方もできれば、いろいろな設定の仕方はあると思うんですが、この住田町としてどうあるのかということを考えていくということが重要だと思います。

ですので、先ほどの目標の4,000というの、4,000という数字にこだわるというより、もちろん重要な一つの目標ではあるのかもしれないんですけども、先ほどもご意見としてちょっと出たように、この町としてどうあったらいいのか、ここで住み暮らす人たちが、当然ながら安心して住める、ここで暮らしができる、安心して次の世代にバトンタッチできるような社会としてどうあったらいいのかということ、この総合戦略であり、総合計画だというふうにお考えいただいて、それを人口という数値でいえば4,000人。でも、もしかしたらもっと少なくてもいいのかもしれないし、もっと多くなきゃいけないのかもしれない。それは、今なかなか正直なところ分からないところです。そこははっきりしない言い方で申し訳ないんですけども、一番重要なのはここで暮らす皆さんが、安心して暮らせる。次の世代に渡していけるかということです。

おそらく、町長、副町長が女性や子供っていうのが、今回、非常に大きなテーマだところを徹底して考えていきたいと言われてるのはそういうこと、そういうメッセージだと私は受け止めています、副町長よろしいでしょうか。

ぜひ、これを行政各部署からもですね、具体的な施策が今後検討なされ、皆さん部会に

分かれた検討でもそうした点が本当に活かされているかどうかということをお皆さんにですね、意見交換する場を作っていくことになりますので、ぜひ、具体策としてどういうふうに考えていくかというところで、ご意見をいただきたいというふうに思います。

**千葉委員** なかなか、子育て教育の方で出てこなかったもので、私一言。こちらの14ページの住田町ってこんな町っていう、子育て、教育環境という部分なんですけれども、このとおり、自然があって、子育ては町が支援してくれるので、すごい住みやすい町。これは結構他からも言われる部分で、結構住田町は子供たち恵まれているなとすごい感じしているところではあります。この中で、子ども同士の交流の少なさとか、学び場所、遊び場所、娯楽の少なさが弱みってあるんですが、今子供たちの娯楽とか、遊びというのは全然昔と変わっております。うちでも、昔であれば暑かったら涼しい洞窟、滝観洞に来て涼みに来るよとかそういう部分で観光とかそういう部分があったと思うんですが、今はどの家にもクーラーが涼しい部分。逆にどこかの施設に行けば涼しいところは絶対あるし、そういう部分で特に出なくても大丈夫。そして、遊ぶ場所というのも、今うちの息子が小学校6年生なんですけれども、基本的にまち家世田米駅さんの方に結構毎週のように行っているんですが、そこで、子供たち集まって、中学生も小学生も関係なしで集まって、その中でゲーム中心にまずやって、飽きたらちょっと外で遊んだりとか、やっぱそういう意味で交流は取れてるのかな。ただ、そういう部分を知らない親御さんとかが多いと思いますので、そういう部分ももう少し発信していけばもっと人が集まってとか、賑わいが出てくるんじゃないかなと、ちょっと考えているところでもあります。なので、実際今度モラルとか情報とかそういう部分でSNSとかそういう部分の怖さが出てきているので、それはむしろPTA関係でも各中学校とかで親同士の勉強もしているのですが、今後、やっぱりスマホがいろんな人に回っているんで、町でもそういうモラルとかそういう部分、上の人たちとか、親とかおじいちゃんおばあちゃん、わかりやすい部分そういう部分にもつなげていければ、娯楽という部分はまだまだ広がっていくんじゃないかなと思います。

**大杉委員長** これからの検討にも是非生かしていただきたい部分のご意見。

**水野委員** 私消防団の代表で来ているんですけれども、この前台風19号で住田町内に警戒レベル5まで行きました、避難指示が発表されました。私本部ですので、消防署の方で丸一日待機していたんですけれども、朝早くからすみだ荘の職員の方々が世田米中学校の方に避難しましたし、夕方からこちらの町民ホールの方に避難されている方100人を超えたと思うんですね。町内だけでも、役場とか消防団の方で把握しているだけで400~500人ぐらいだったと思うんですよ。そういう災害があった時に、なかなか一人で活動できない方が多いと思うんですよ。なので、隣同士とか近所とか、知り合いとか移動されている方が多かったんだと思います。そういうふうに地域みんなで、協力し合ってやっていくっていうのも、人口4,000人を保つという感じに思いました。

**大杉委員長** この中でも、地域コミュニティについてでていて、先ほどもちょっと説明があったかもしれませんが、そのあり方を、特に防災だけでなく、福祉であるとか

そういう面もそうですけど、そこのあり方と密接に関わってくるところだと思いますので、今回の計画づくりの中でも非常に重要なポイントだろうと思っています。

**小野委員** 私は、実家は住田町で世田米の街中なんですけど、生まれも育ちも住田町ではなくて、父親が銀行マンだったということで。なんで、ここにいるのかというと、実家に父親たちが帰ってきて、祖母の介護とかそういうのも含めてある程度私たちも自然とそういう手伝わなきゃとか意識が出てきて、地元は、少しずつ盛岡の方で働いていたんですけど、週末帰ってきてという生活を続けているうちに、結局結婚もこちらの人と出会うっていう形を、いろいろ地域に参加してそれで子供も生まれて、みたいな感じです。ずっとこう10年間してきたんですけど、私が感じたのは地元の人あまりこういうのに興味を持っていないんじゃないかなと、逆に。地元のいろんな地域のコミュニティがすごいってなっているんですけど、なっているのに参加の感覚が薄いついていうか。子供がいると子供の育成会とか、スポ少とか力を注いでいるんですけど、そうではない、違ったところでは出てこなかったりというのを見ると、私は別のところにいたので、狭いコミュニティが逆に新鮮だったんですよ。なので、すごい興味深くて面白さを感じたんですけど、絶対都会の人はあんまり人との触れ合いがよほどじゃない限りつながっていかないじゃないですか。だけど住田町に10年暮らしていると住田町、結構知り合いが増えたんですよ。だから、住んでみたら地元の人よりも知り合いが多いつてみんなに言われて、結局同級生の範囲だけでしかつき合わないとか、そういう一定の人だけのつながりしか地元の人はないみたいで、地域のおばさんから、最初に知り合ったのが同級生世代というよりはおじいちゃんおばあちゃん世代が多かったんで、そこから孫の世代までという感じで私は知り合っていたので、最初来たときは本当に若い人とは一つも出会いがなく、住田町に人いないんだみたいな感じはずっとこうやってきて。

今度兄家族も、東京にいたんですけど、子どもが自然が大好きで、毎年毎年、近くのスキー場に来たり、夏になると釣りに来たり、そういう都会にいるより楽しいっていうので、今8人家族で暮らしているんですけど、今の時代でいうと、家族の関係性が希薄化されているのに、逆に自然が増えていったという感じで、兄もちょっと表で商売するっていう住田町の商店街がいずれまた新たな改革をしているっていう、自然に私たちはできてきたっていうかそういうのが、もう少しこう周りの人たちにも関わってほしいというか見てほしいというか。

周りと話していると、子供が優秀に育ててほしいのはもちろんなんですけど、外に出たらそのまんまいいところに勤めて帰ってこない可能性が高いっていうか、そういうのよりも、自然とそういう家族とのつながりができてくると戻ってくる可能性が高いけど、ちょうど10代、20代の人がいなくて、15から49の女性といっても確かにいないのはその通りで、雇用を増やせ、子供を増やせって言われても、一人の人が10人産むわけではないですし、やっぱり人とのつながりというのも少しく持ち帰った方が増えるのかなというところで感じました。

**大杉委員長** 小野さんのような方を分析してですね、こういう方がもっと増えていただければ、行政が考えている目標なりなんなりっていうのに近づいていくわけです。もっといろいろ実際に、今日半数ぐらい委員女性になりましたけれども、それぞれいろいろ地域の中でのあり方があると思うんですよね。ここに選ばれてこられているような方々の、そうした地域の中でされていること、実現している生活ってどんなものなんだろうかって、もっと素直にすつと受け止めて、それをみんなで共有していけるっていうことが、その中では行政がやるべきこともあれば、行政だけではできないわけではないので、そういうことがもっと地域の中で共有されていかないとよくなるのかなと思いますよね。

ここは行政でどうしていくかという計画を作る場でもあるんですが、おそらくそれだけじゃないのかな、と私は、今の話を聞いて思うところがありますね。

**菊田委員** 私の場合はですね、農業という部分についていろんな提案なりできればいいのかなというふうには思っておりました。なので、仕事柄、農業には関わっておりますけれども、現状ですね、各地区、農地が荒れてきているという中で、それをいかに根気強く、地域の土地を守っていくかということを考えているんですけれども。人口が減っていく中でですね、働き手も少ないという中で、何か、抜本的な考え方を変えてですね、取り組む必要があるんじゃないのかなというふうに考えておりました。

そういったところをですね、皆さんの意見、あるいはヒントを得ながら何か、探してみたいなというふうには考えておりました。

**大杉委員長** 基幹産業でもありますので、ぜひ、今後よろしくお願ひしたいと思います。

**紺野委員** 今回の部分とはかけ離れてしまうのかもしれないんですけれども、私が今感じているのは、近年、ここ2、3年で住田町を取り巻く道路環境がすごく変わってると思うんです。自動車専用道路が周りにできたりとか、車の流れも変わってきているので、これをマイナスではなくプラスに生かせる町づくりができてくれば、また、なんか変わってくるのかなと感じていました。

**多田委員** 住田町婦人部っていう立場で出席させていただいているんですけど、女性が生き生きと住みたくなるような町づくりというところで、婦人部は本当に人が少なく、役員のなり手もなくですね、これはどうしたものだろうという問題が、ここ数年前からでているんですが、それをなんとかせにゃならんということを話し合っているんですが、なかなか解決には至らないです。それこそ、菊田さんが言いました、抜本的に考え方を変えた方が良いということで、婦人部でも新しい考え方で、婦人部ではなくて女性部がいいんじゃないかとか、型にはまったものではなくて、違う方法、生活とか産業とか、そういうようなところで新しく考え方を変えて、組織作りをしていった方が良くないかという意見もあるんですけれど、なかなかまとまらないので、この、皆さんから何か新しいヒントがいただけたらなと思ってきました。

確かに、女性が生き生きと活躍できないと、町は元気にならないと思うんですよ。今まで元気で活躍してきたお年寄りの方も、本当はまだ元気なのに家の中にくすぶっている

ので、そこを外に出して、元気に生き生きとしていけるようであれば、住田町もとても元気でいられるんじゃないかなと思います。

**泉委員** 先ほど言われたように、火石交差点から高田に行く新しい道路など、幅広くなりまして、交通の便が良くなったと思うんですね。ただ、その分、住田町は畜産も農林もありますので、大型トラックなども通行するところ、通学などの児童が危険な時もあるということで、スクールバスに乗ってくる子たちもあります。住田町は広いので子供さんのいる家庭が点在してしまっているんで、スクールバスなどの送り迎えは良いと思うんですが、実際に乗っている子たちがそんなに多くないんじゃないかなと思うんですね。そうすると家庭での送り迎えがあるんですが、そうすると仕事、会社の理解が欲しいっていう感じになると思うんですね。広い住田町の、どう子供と学校をつなげていくか等、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

**金野副委員長** 浩美さんの話聞いて思ったんですけど、女性が元気とかって、女性が人数が少ないかなっていうことなんでしょうけど、私、男性の方が元気ないんじゃないかなってちょっと逆に思っているところがあって。っていうのは、去年女性議会やったじゃないですか。その時に、議員さんたちからお話聞く機会があって、その時に婦人部ってどうなんですかって言ったら、会議とか何とかできちっと出てきて参加してくれるのが婦人部の皆さんですっていうことで、何かあればきちっとやっているのは女性であって、そういうところに協力的じゃないのが逆に男性じゃないかなっていうところで、その、男性が元気で魅力的だったら、女性は集まってくるんじゃないかなというのが、ちょっと浩美さんの話を聞いて感じたところです。

**大杉委員長** 数値としての 4,000 人というのは、目標に掲げるんですからそれはちゃんと考えなければいけないんですけども、きっちりその数値じゃなきゃいけないという話ではないということは、そこに込められた住田町としてのあり方というところが問われているんだということと、今の基本目標として、豊かな緑と水に生まれ、安らぎとにぎわいが調和する共生の町住田、という中で、これどういうふうに進んでいくか、もうちょっとこれは考えていただくとして、文言としてはこのような形で進めさせていただくということで、また、次回以降具体的な議論は、これからご説明がある件と、会議の開き方なども含めてですね、ご提案、事務局の方からさせていただきますので、進めさせていただくということでよろしいでしょうか。

それでは今後のスケジュールということでお願いします。

## (2) 今後のスケジュール

- ・事務局が資料 6 に基づき説明

**大杉委員長** ただいま合同部会のお話がありまして、皆さんスケジュールをいただいている方もいらっしゃると思いますが、日程調整もそれですでにいただいています。

3つの部会ができますので、3つの会議が行われるということですが、所属以外の部会もぜひのぞいてみたい、出てみたいという場合は、私はぜひご参加いただきたいなと思いますので、事務局の方も部会の日程が決まりましたら、皆様にお伝えするようにお願いしたいと思います。必ずしもこの分野だけって当てはまらない関心をお持ちの方っていらっしゃるんじゃないかと思うんですね。ただ、日程調整の関係もあるので、所属している部会を中心に日程は決めさせていただいてということにさせていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

その他は特に事務局ないということでもよろしいですね。

お二人の佐藤さんと吉田さんは、前の委員会からいらっしゃるので特段ご発言いただきませんが、何か言いたいことがあれば、その他の方も最後一言これだけは言っておかないと帰れないということがございましたら。

**佐藤(晃)委員** 次の委員会等に向けて、追加でいただくような資料あるんですか。

**高萩係長** その都度資料がありますが、資料5のいろんなデータが載ったものだけは、ページ数が多いので、その都度印刷していると一杯になってしまいますので、そちらは会議のたびにお持ちいただければと思います。そのほかの資料については、その都度お配りさせていただきます。

**吉田委員** できればですね、前もっていただければ読み込んで、委員会がスムーズに進むかと思えますし、せつかくでするので、皆さん限られた時間の中でするので、意見こういろいろお話あるんですが、アンケートみたいなもので、最後に配っていただいて、発言しなくても思ったこととか、帰って郵送なり、すぐ書ける人はその場でも、そうすればもっと意見が集まるのではないかなと思いました。以上です。

**大杉委員長** 参考になるご意見ありがとうございます。

本当は言いたかったけど言えなかったようなこと、紙の裏に書いていただいて結構ですし、次からはそういうアンケート用紙みたいなもの付けていただければなということです。

以上、次第すべて終わりましたので、大変申し訳ございません。初回から7分超過してしまいました。私の不手際な運営で申し訳ございませんが、第1回の住田町総合計画推進委員会をこれで終了させていただきたいと思います。

21 : 07 閉会